

令和七年度 A日程入学試験問題

国語

2月4日(火)

— 注 意 事 項 —

2 1

問題は1ページから29ページ、解答用紙は一枚である。
次の指示にしたがうこと。

文学部（日本文学科・中国文学科・史学科）は1・3・4を解答すること。
文学部（外国語文化学科・哲学科）、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、
観光まちづくり学部は1が必須、2・3・4から一つを選択して解答すること。

（解答する問題番号を、解答用紙のマーク欄にマークすること。選択問題を複数解答
した場合は無効とする）

4 3

解答はすべて別紙解答用紙に記入すること。
試験時間は六〇分である。

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄

1

 ～

8

 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄

1

 ～

14

 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問六で40点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問十で70点）

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

柳田國男は、相手の顔がよく見えない黄昏時^{たそがれどき}、村人は意図的に挨拶をして誰か確かめていたと言う。それでも誰か分からないとき、相手はよそ者——異人ということになる。柳田が stranger という言葉を使っているのもこの時点で、「岡山県でも stranger を意味する語を、面と向かってはボーツツァン、陰ではやはりボウチと謂^いっている」と書いている。柳田は、語源は「法師」かもしれないとしつつ、それがオバケの名称になっていることも指摘する。そのため、声をかけるのは「自分が化け物でないことを、証明する⁽¹⁾鑑札も同然であった」。たとえば佐賀ではモシモシと言ひ、モシと一回だけなら応じることはない。なぜならキツネと疑われるからである。沖縄でも三回呼ばれるまでは返事をしない。石川県小松では、ガメという妖怪が人間に化けるときは、誰だと言うと「ウワヤ」と言う。また能登でもカワウソが化けたものは、ヒトなら「オラヤ」というところを「アラヤ」と言う。岐阜の武儀郡ではタヌキが化けた人間は誰だと言われると「オネダ」と言う。高知県幡多郡では「オラ」ではなく「ウラジャガ」という、そこで「ウラならもとよ」と言い返すと化かされないという。——要するに、人間の姿で現れていても、言語の運用能力に部分的な不完全さがあるので、慎重に判断できれば、相手に化かされることはない、という民俗知識が広まっていたと言うことを柳田は言おうとしている。ただし柳田の常として、そこから分析を展開するのではなく、次の話題に移行してしまう。

より近年のデータにも関連するものがある。島根県隠岐はヤマネコが化けることで有名だが、たとえば次のような話があるという。

年配の島民は山中や海上で遠くにいる人に「よいい」と呼びかけることがある。猫が人間に声をかけるときにも「よいよい」、もしくは「よいい」と言う。夜中、山中を歩くときにその声を聞いて返事をする、猫に化かされてしまうのだという。隠岐の島町布施の例では、仕事帰りの村人が山道を歩いていると、漁船の明かりが異常に近くに見えて「よいい」と呼ぶ声がするので、「あー」と返事をした。すぐ後ろを振り返ると大男が立っていた。村人が「しょうがあるものか、ないものか」と尋ね、後ずさりしながら逃げ帰った。

この出来事において、人間的な声は ^(u) 化かす準備段階^(u) ということになるであろう。こうしたやりとりは言語人類学において交感的と呼ばれるもので、相手との社会関係を確立する機能を持っている。だがそれだけではなく、アニメズム社会においては、交感的な発話は超自然的な力を持ったものとして現れている。

ここで「超自然的」という言葉を用いたが、現代アニメズム論において、この概念が通常の意味を持っていないことは指摘しておかなければならない。そもそもアニメズム社会を含めた非近代的な状況において、妖怪や怪異などを超自然的であると概念化することは大半の場合において不適切である。そのため、アニメズムを議論するときあえて交感的発話が超自然的であるというとき、それは超越的・霊的・神的・非物質的・呪術的……であることを意味しない。この点を理解するためには、私たちはアマゾニアの奥地に向かわなければならぬ。

アニメズム世界における呼びかけの恐怖を、ヴィヴェイロス・デ・カストロは、アン・クリスティーン・テイラーの民族誌を用いて分析している。テイラーによると、ペルーのアチュアル・ヒバロの人々がひととき恐れるのは、イウィアンチュという死者である。イウィアンチュはおぞましい影のような毛だらけの巨人の姿をしているのだが、女性や子どもには普通に見える。女性や子どもがそれと知らずイウィアンチュと会話をしてしまうと、それと同類と化してしまう。それに対して成人男性は ⁽³⁾ 明晰に見ることができるので、話しかけられても「私も人間ですよ」と言い、銃声などを立てれば助かると言う。被害にあった女性や子どもは、ヒト——つまり元同類と出会うと、昏倒^(v)するか言葉が話せなくなってしまう。だが、タバコの煙でいぶすなどすれば元に戻る。

日本の事例と近いものをこのデータの端々に探すのはそれほど難しいことではないだろう。さしあたりイウィアンチュに関しては、妖怪≠異人すなわち鬼が人間に見えてしまい、そして会話をしてしまうと化かされた状態になり、ヒトとの真つ当なコミュニケーションが不可能になるが、それに対して適切な応答をすれば化かされないこと、さらに鬼に対しては大きな音や煙が効果的だということ、とまとめることができる。

だが、なぜ日本においてもペルーにおいても、鬼の呼びかけに素直に応じることが致死的なのだろうか。ここでは化かされる事例に限定して、その記述を敷衍^{ふえん}してみたい。

まず、会話やコミュニケーションが可能であるということ自体が、相手を「私」と同等の存在論的身分になるものと位置づけることである。つまり「私」はヒトであり、実際には鬼である相手もヒトである、という事実が確立される。だが直後、相手がヒトではない、死者あるいは動物であることが明らかになったとする。すると、「私」は通常のコミュニケーションによって死者・動物である相手と同等であることになっているので、「私」も死者・動物だということになる。すなわち相手の畏^{わな}にかかっており、この時点で「私」は主体≠文化である人間ではなく客体≠自然になってしまう。このプロセスが、^(b) 異人≠鬼^(b)によるヒトの客体化である。しかし相手はそのような変化が起ることをあらかじめ知っ

ており、現場を^(w)掌握しているため、単なる他者＝客体＝自然ではなく超自然として、すなわち主体＝自然として「私」に対して現れる。ヴィヴェイロス・デ・カストロが端的に言うように、この場合の超自然とは、「〈主体〉としての〈他者〉の形式」である。「私」はもはや死者・動物と化してしまっている、ヒトとの文化的なコミュニケーションが不可能になっている。こうした客体化を回避する方法が、自分もヒトのままで人間であることを宣言する発話である。ヴィヴェイロス・デ・カストロが定式化する関係論的な超自然概念は、日本における「化かされる」事態と正確に対応する一方で、従来の超自然概念とはほとんど一致しない。

より物質的な超自然的事態として、^(x)ともに食事をする^(x)ことが危険な行為とみなされることがある。ブラジルのワリの人々を調査するアパレシダ・ヴィラサは、動物や死者に化かされることについて次のように述べる。

森林で狩人が誰かに出会ってその住居に行き、後になってその人物が同類ではなく動物か精霊、あるいは死者であったことに気づく。(…) 獣肉と称して虫を食べる、ハンモックと称して樹木で寝るなどである。こうした異常行動を目撃して、狩人は逃げ道を求め、帰宅する。しかし、もし彼が相手を完全な同類として見ることができてしまい、自分と同じような習性を持つと認めることができてしまったなら、彼は相手方に捕らわれてしまうことになる——つまり、それらの同類に変わってしまうのだ。家に帰ろうと思っても、彼はもはや自分が属している人々としては認識されず、動物か死者、精霊とみなされてしまう。ここでは共食が中心的な役割を果たす。それは、単に同じ食料が似た身体を作るからだけではなく、食料を分け合えることがパースペクティブの同一性の重要なしるでもあるからだ。一緒に食べた者は、何よりも、自分たちが似た観点を共有しているという事実を確保する。それはお互いを食べるときに起こることの反対なのである。

要点は、あるヒトがヒトにとって人間でなくなるといとき、それは社会的排除だけではなく、物質的・身体的にヒトではなくなるといことである。また、引用部分の後半でのヴィラサの指摘が日本の古典的な黄泉戸^{よもつへい}喫にも該当することは言うまでもない。死者として黄泉の国に滞在していた女神イザナミは醜悪な死体と化していたが、しかし^(c)死者から見れば、彼女は美しい身体を持った普通の人間だったはずである。一方で、ヒトが超自然的になる状況も^(y)付記しておくべきだろう。たとえばシャーマンは古典的な意味でもアニミズム的な意味でも超自然的だし、また動物に変装して近づく狩人は、動物に対して超自然的である。

以上のように、「私は人間である」という宣言は、「私たちはあなたと違って人間である」という意味ではない。なぜならば、会話ができる＝靈魂がある以上、相手も異類の人間であるのは自明の理だからである。むしろ「人間」が固定的カテゴリーを指示する名詞ではなく代名詞的なものであり、「人間である」と言うことが、特定の代名詞を発する主体として自己を確立させることだとするならば、これは柳田の用いた事例にも確認できる。すなわち、土佐の幡多郡では、タヌキは「オラ」とは言えず「ウラじゃが」としか言えないので、ヒトが「ウラならもとよ」

と言いつ返すと化かされないという。これはタヌキが化けた人間的存在に向かつて、お前は私にとって人間ではないと宣言していることに等しい。まだヒトである自分にとって正しく「私である」と言えるかどうか、相手が異人なのか、それとも自分の属する集団の成員なのかを判断する基準になっている。それは相手のみならず自分が人間であること、可視的身体を正当に帯びている主体であることを確立するための、メラネシアや日本、アマゾニアといったアニミズム世界に^(z)共通する生存の技法であった。

呼びかけによる客体化というプロセスは、近代西欧社会に生きたルイ・アルチュセールが論じた、呼びかけによって主体化されるというプロセスと正反対になっている。この差異は、まずは単純に、アルチュセールにとってヒトとヒト以外とのコミュニケーションが想定されていないという理由による。だが、ヴィヴェイロス・デ・カストロはより深いところに両者の共通点を指摘する。国家を持たなかったアマゾニアの先住民にとって、精霊との超自然的遭遇は、「国家についての土着の祖形的経験のようなものである。つまり、自身が国家の「市民」であることを見いだす重大な経験を予告している」。警察に呼び止められるとき、監視カメラに見られているとき、身分証をチェックされるとき、それらは「何かが起こりかける」ときであり、しかしその何か（逮捕や拘禁など）は、「私も人間です」市民です」と言うことにより逃れることができる。

先住民は鬼から逃げようとするが、結局のところ国家のなかの市民となってしまう——客体化されてしまう。^(d)鬼である異人は、先住民にとっては、すでに市民となっている近代的な私たちなのである。

（廣田龍平『怪奇的で不思議なもの』の人類学）

（注）○アニミズム——動植物、無生物など、すべてのものに靈魂の存在を認める思想・信仰。

○アマゾニア——南米大陸におけるアマゾン川流域の総称。

○ヴィヴェイロス・デ・カストロ——ブラジルの人類学者。

○アン・クリスティーン・テイラー——フランスの民族学者。

○アパレシダ・ヴィラサー——ブラジルの人類学者。

○黄泉戸喫——死者の世界である黄泉国での飲食。

○メラネシア——太平洋南西部のうち、赤道以南、東経一八〇度以西の区域の島々の総称。

○ルイ・アルチュセール——フランスの哲学者。

問一 二重傍線部 (1)・(2)・(3) と同じ意味の語として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中からそれぞれ一つ選び、(1) は解答欄

1 に、(2) は 2 に、(3) は 3 にマークしなさい。

(1)				
1	ア	イ	ウ	エ
	身分証	照会証	申請証	登録証
	オ			診断証

(2)				
2	ア	イ	ウ	エ
	いかめしい	いまましい	いたいたしい	いかがわしい
	オ			いまわしい

(3)				
3	ア	イ	ウ	エ
	天然	超然	歴然	悄然
	オ			陶然

問二 傍線部 (a) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 4 にマークしなさい。

ア 妖怪や動物は人間そっくりに化けていたとしても、不完全な人間性しか備えていないので、そこに気づけば化かされることはないというこ
うこと。

イ 妖怪や動物が人間に化けて現れたとき、三回呼ばれるまで答えないなど不完全な返事しかできないので、そこに気づけば化かされるこ
とはないということ。

ウ 妖怪や動物は法師の姿に化けて人間に近づいてくるが、不完全な挨拶しかできず、そこに気づけば化かされることはないということ。

エ 妖怪や動物は化けて人間の姿をとったとしても、挨拶の応答に不完全な点があるので、そこに気づけば化かされることはないというこ
と。

オ 妖怪や動物が人間の姿に化けたとしても、黄昏時にのみ意図的に挨拶するため、そこに気づけば化かされることはないということ。

問三 傍線部 (b) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 5 にマークしなさい。

ア 死者や動物、精霊である異人が人間に呼びかけることは、文化的なコミュニケーションの客体として人間と交感することであるため、人間はその同類に変化させられてしまうということ。

イ 異人は人間と言葉を交わすという手続きを経ることで、ヒトであることを確立されるので、自身を主体Ⅱ文化である人間と同等の存在へと変化させることができるということ。

ウ 異人がヒトをよそおって人間とコミュニケーションすることにより、人間は異人にかかって超自然的な主体へと変化させられてしまい、他者Ⅱ自然が客体に変化するということ。

エ 異人が会話という手段を通じて、人間に自分を相手と同じヒトだと認めさせることにより、人間は死者あるいは動物Ⅱ自然の側へと変化させられてしまうということ。

オ 異人すなわち鬼と人間とのコミュニケーションは、異人が文化Ⅱ主体に変化し、逆に人間が自然Ⅱ客体へと変化させられるという交感によつてのみ可能であるということ。

問四 傍線部 (c) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

ア 死者は黄泉の国の文化Ⅱ主体となっているため女神イザナミの姿を同類の美しい身体と認識するのに対して、生者は黄泉の国では客体でしかないために、女神を醜悪な死体の姿と認識してしまうから。

イ 黄泉の国の死者は肉体的にも女神イザナミと同様の存在に移行しているため、黄泉の国では客でしかない生者の目からは隠されている、女神の美しい身体を認識することができるから。

ウ 黄泉の国の死者は女神イザナミが醜悪な死体に見える生者に対し、パースペクティブの同一性を構築するため、女神の通常 of 美しい姿という観点を共有するような罫を仕掛けて客体化しようとするから。

エ 生者は超自然的存在として黄泉の国にいるため女神イザナミの醜悪な死体の姿を認識するが、客体化されている死者はイザナミに捕らわれており、美しい身体を認識させられてしまっているから。

オ 生者の目からは死者である女神イザナミは醜悪な死体としか見えないが、女神イザナミは黄泉の国の死者と同類となっているため、死者の目からは女神の姿が通常 of 美しい身体と認識されるから。

問五 傍線部(d)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 7 にマークしなさい。

ア 国家を持たなかったアマゾニアの先住民にとって、警察に呼び止められたり身分証をチェックされたりする経験は、呼びかけによって「私」が主体化することである。それは精霊や死者との超自然的遭遇を無事に切り抜ける技法と同じであるため、近代的な「市民」たちもまた鬼と同様であるということ。

イ 国家に属さない部族単位の生活を行ってきた先住民が、国家権力による逮捕や拘禁などを回避するために市民であることを宣言せざるを得なくなるのは、「私」という主体を奪われるということである。それゆえ近代的な「市民」は先住民にとって、精霊や鬼と同じような意味を持っているということ。

ウ アニミズム世界を生きてきた先住民には、逃げようとしても「私」という主体を国家権力の監視カメラで見られてしまうという経験は、精霊との超自然的遭遇と同じく不思議な出来事である。したがって先住民にとっては近代的な「市民」の生活が、精霊や死者といった異人として経験されるということ。

エ 国家などのヒト以外とのコミュニケーションを想定していない先住民にとっては、何かが起こりかけたときに「私」は市民であると宣言することにより逃れるという経験は、鬼や精霊との遭遇とも共通する経験となる。それゆえ近代的な「市民」は先住民にとって、鬼や異人と同様の存在と考えられるということ。

オ 国家という土着の祖型的な経験を有している先住民は、「私」という主体が国家権力により客体化させられ、市民となることを予告されている。そのため鬼から逃げようとする先住民にとって近代的な「市民」との遭遇は、精霊や鬼といった異人との遭遇と意味の上ではまったく同じであるということ。

問六 問題文の内容としてふさわしいものを、次のア～カの中から二つ選び、解答欄 8 に二つマークしなさい。

ア 黄昏時に相手が異人であるかどうかを確かめるため、村人は意図的に挨拶をする。岡山県では面と向かつてはボーツツアンと呼び掛けて確かめる。

イ ペルーで恐れられているイウィアンチュという死者は、普通の女性や子どもの姿をとって会話してくるが、タバコの煙でいぶすなどすれば元の姿に戻る。

ウ ブラジルのワリの狩人は、森林で獣肉と称して虫を食べたり、ハンモックと称して樹木で寝たりすることを、同一性を確認する重要なしるしとしている。

エ 動物や死者だけでなく、ヒトも超自然的存在になりえる。たとえば動物から見れば、動物の姿に変装して近づくヒトの狩人は超自然的存在である。

オ タヌキが化した人間的存在に向かって「ウラならもとよ」と言い返せば化かされないのは、相手が可視的身体を正当に帯びていると判断できたからである。

カ ヒトは呼びかけによって主体化されるというルイ・アルチュセールの主張は、近代西欧社会のヒト同士のコミュニケーションのみを想定しているから成立する。

注意 文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は、次のページに問題が続きます。 ←

問七 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (V)・(W)・(Y) の説明として最もふさわしいものを、次の **A**～**O** の中からそれぞれ一つ選び、(V) は解答欄 **9** に、(W)

は **10** に、(Y) は **11** にマークしなさい。

(V)

9

- A** 精神が混乱して迷うこと
- I** 眠気に耐え切れなくなること
- U** めまいがして倒れること
- E** 区別がつかず入り混じること
- O** 恐怖のあまり気絶すること

(W)

10

- A** 物品などを手に入れること
- I** 意のままに使いこなすこと
- U** 観察し細かく理解すること
- E** 互いに協力し合力すること
- O** 力づくで支配権を得ること

(Y)

11

- A** 本文と同内容を異なる表現で説明すること
- I** 本文にさらなる説明を添えること
- U** 本文と別の話題をことさらに述べること
- E** 本文の要点を重ねて繰り返すこと
- O** 本文の趣旨をさらに発展させて考察すること

問八 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (U) の説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 12 にマークしなさい。

ア 山中や海上で猫が遠くにいる人に呼びかけるのは、呼びかけに答えた対象と交感し、従属させるための準備であるということ。

イ 夜中の山で猫が人に「よいい」などと呼びかけるのは、振り向いた対象に自分を大きく見せ、従わせるための準備であるということ。

ウ 夜の山中で猫が人間に呼びかけるのは、言葉を交わすことで対象との関係を構築し、自分の支配下に置くための準備であるということ。

エ 夜の山道で猫が人間に呼びかけるのは、対象との交感的な発話により関係を確立して、距離感覚をおかしくさせるための準備であるということ。

オ 夜中の山道で猫が人に呼びかけるのは、対象に返事をさせることでその後ろに出現し、超自然的発話を完成させる準備であるということ。

問九 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (X) の理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 13 にマークしなさい。

ア 誰かと食料を分かち合うことは、お互い同士が似た観点を共有している事実を確かめる行為であるため、親密でないと行なわないことであるから。

イ 森の中で食料を分かち合うことは、獣肉だと思って食べたものが後になって虫だと確認されることがあつたりするため、健康上問題があるから。

ウ 誰かの住居で食料を分かち合うことは、逃げ道を求めたときに相手方に捕らわれてしまう行動であるため、社会的に排除されかねないから。

エ 精霊や死者たちと食料を分かち合うことは、相手と同じ習性を持つことを認める行為であるため、捕らわれて帰宅できなくなってしまうから。

オ 同じ食料を分かち合うことは、互いが同類であることを確認する行動であるため、動物や精霊との共食はその同類へと変わることであるから。

問十 (文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部のみ解答すること)

波線部 (Z) の説明として最もふさわしいものを、次の A～オの中から一つ選び、解答欄 14 にマークしなさい。

A メラネシアや日本、アマゾンにおいて、相手が自分の属する集団の成員か化けている超自然的な異人かを判断するために、会話が可能かどうかを基準としている点が共通しているということ。

イ メラネシアや日本、アマゾンにおいて、超自然的な異人が人間を化かすために、呼びかけをおこなってそれに返答させることで従属させるという手段が共通しているということ。

ウ メラネシアや日本、アマゾンにおいて、人間に化けた超自然的な精霊や死者から逃げ延びるために、相手の呼びかけに返事をして客体化を行なうという方法が共通しているということ。

エ メラネシアや日本、アマゾンにおいて、超自然的な死者や動物から化かされないために、自分が主体を確立している人間であることを宣言するという方法が共通しているということ。

オ メラネシアや日本、アマゾンにおいて、霊魂がある異類の人間に化かされないようにするため、相手が人間であることを否定するため返答しないという手段が共通しているということ。

この問題は、解答欄 21 から 28 に解答すること。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(30点)

フェミニズムに対する関心が社会に浸透するにつれ、欧米世界のみをもって「世界」とするような従来の認識を脱して、文字どおり世界の女性がおかれた諸状況を理解することの必要性和重要性に対する認識が、日本でも女性学に関するとりくみのなかで徐々にではあるが芽生えつつある。世界に向けて私たちの関心が開かれること自体は、アラブ文学といういわゆる「第三世界」をフィールドとする者にとって、ひとまずは慶賀すべきことにちがいないのだろう。だが、^(a) 事実は喜ばしいことばかりではない。

「第三世界」の女性に対する関心が高まり、「第三世界」の女性に関する言説が市場的価値をもつようになるにともない——^(b) 悪貨が良貨を駆逐するという市場の原理はここでも有効だ——、実際は「第三世界」に対する差別的なまなざしに基づいた、彼女たちをことさらに犠牲者視し、彼女たちの社会を抑圧的で野蛮なものとして表出するイメージ——そう、たとえば二〇世紀の現代においてなお、七世紀の掟^{おきて}に縛られるムスリム女性（私たちは自社会の法や規則について、まず「掟」ということばを使ったりはしないことを想起しよう）、ヴェールの陰に幽閉されるアラブ女性、因習によって人権を抑圧されるアフリカ女性といったステレオタイプ——が、「人権」や「フェミニズム」を⁽¹⁾ 標榜^{ひょうぼう}する言説のなかで拡大再生産されている。

こうしたステレオタイプが問題なのは、それらが単に差別的で誤っているから、ばかりではない。これらは、それ自体が差別的意識の反映であると同時に、人々の認識のなかで差別的な他者像を再生産し、これを実体化してしまう。そして、他者をそのようなものとして——抑圧的なアラブ社会、差別されるムスリム女性、因習の犠牲者アフリカ女性等々——一方的に規定することによって、その反転像としてのたぶんナルシスティックな自己像——何はともあれ幸せな日本社会、近代的人権概念をもった「私たち」——を内面化させ、「解放」の幻影を与えてくれもしよう。しかし、実際のところ、そのような他者像／自己像は、私たち自身を解放の真の地平から遠ざけ、私たちのフェミニズムの可能性を掘り崩すものでしかないだろう。

問題はそれだけにとどまらない。「西洋フェミニズム」の言説がアラブ社会やアフリカ社会、あるいはイスラームを女性差別的、抑圧的なものであるとして批判する根拠としている「人権」や「フェミニズム」の普遍性といったものは、こうした批判に先立ってア・プリオリに存在す

るのではない。それらは実のところ、西洋が他者を（被）抑圧的なものとして一方的に規定するという行為によってのみ担保されている⁽²⁾であり、そのような「普遍的」人権やフェミニズムに、これら該当社会の女性たちが与_くしないのはある意味で当然のことだろう。それは、女性の人権や、人権の普遍性を否定するのとはまったく違うことのはずだ。たとえば、「西洋は私たちに人権というものを教える側ではありません」というナワール・エル・ザアダーウィーの言葉がここで想起されるだろう。

彼らは我々を植民地化して、常に人権を踏みにじつてきました。そして、新植民地主義を通しては、経済的虐殺を行なっています。私たちに貧しさを押しつけるということは、人権に反することですよね。我々は彼らから人権や民主主義を学んだりしませんでした。

あるいはエティエンヌとリーコックは次のように語っている。

男女間の平等主義的な関係は西欧の価値観が輸入されたものではなく、その逆こそが真である事実を明らかにすることが重要である。平等主義的な関係、あるいは、少なくとも相互に尊重しあうような関係は、前植民地時代の世界の多くで生きた現実であったが、それこそ、西洋文化とははるかに隔たったものだった。

けれども、「西洋フェミニズム」は、抑圧される女性の主体性の回復をつねに問題にしながら、民族的伝統やイスラームに主体的に同一化するアラブ女性やムスリム女性が、西洋が主張するような人権の普遍性に対して疑義を表明すると、「原理主義者」「狂信主義者」というレッテルを貼る。「第三世界」に対する先進国のこのような心的態度について、たとえばジジェクは次のように語っている。

第三世界という他者は犠牲者と思われているのです。つまり、犠牲者となつて初めて認識されるということです。真に不安の対象となるのは、犠牲者の役割をすでに捨ててしまった他者です。こうした者は、すぐさま「テロリスト」や「原理主義者」などと呼ばれて糾弾されます。例えばソマリア人などは、まさしくクラインの唱える「良い」対象と「悪い」対象への分裂を経験しています。「良い」対象とは、受動的な犠牲者、苦しみ飢える子供や女たちであり、「悪い」対象とは、国民の幸福よりも自らの権力やイデオロギー的な目的を重んじる狂信的な軍の指導者です。良い他者は、犠牲者という無名の受動的な大勢の中に閉じこもっています。実際の／能動的な他者に出くわすと、父権的であるとか、狂信的であるとか、非寛容であるとかといった、非難すべき点を述べたてたのです。

イスラームがどのような宗教であるかを規定するのが、それを信仰しているムスリム自身ではなく西洋であるように、ここでも、アラブ女性が、あるいはムスリム女性が何を信じるべきで、何を信じるべきでないかを決定するのは、当のアラブ女性、ムスリム女性ではなく西洋である。なぜなら、そこにはつねに異論の余地なき「普遍的な人権」が担保されているのだから。その普遍性に疑いを差し挟んではいけない。さもないとあなたは「文化相対主義者」「原理主義者」「反フェミニスト」か、あるいは下手をすると「狂信主義者」「反人権主義者」「父権主義者」という

ことになってしまう……。

「フェミニズム」対「イスラーム」、「普遍的人権主義」対「文化相對主義」といった粗雑で安直な二分法——二分法とはえてして粗雑で安直なものだが——による議論は、したがって、問題の本質を隠蔽するための、中立性、客観性を装った装置にすぎない。^(d)そこでは、ムスリム女性であることとフェミニストであることが、あるいは自文化の伝統に主体的に参与することと、普遍的人権を信じそれを実践することが、あたかも相互に排他的で、両立不可能なものとして前提されている。しかし、このようなパラダイムで議論すること自体がすでに、特定の集団が一方的に規定したパラダイムを無条件に前提とすることであり、そこで行使されている権力を無条件に承認することである。こうした二項対立の議論の真の意図は、いずれの立場が正しいのか、を論じることにあるように見えて、実は、そうではない。一方的かつ恣意的に他者を表象する権利に対する承認こそが、秘かにもくろまれている。

だから、この問いは罨である。^(a)彼らは執拗に問うてくるだろう。「あなたはどちらの立場をとるのですか」と。中立性を装いながら、そして、あなたに主体的選択を保証しているように見せかけて、しかし実際のところ、この問いはいささかも中立ではない。だれしも正義の側に立ちたいものだ。「差別主義者」のレッテルを貼られるのが分かっているような立場を敢えてとるのは勇気がある。だが、問題はそれだけではない。なぜなら、いずれの立場をあなたが「主体的に」選択するにせよ、このような議論のパラダイムに乗ってしまった瞬間、あなたは、だれが他者を表象する言説の主体となるべきかについての前提を承認してしまったことになるからだ。^(e)だから、私たちはこの問いに答えてはいけない。問題なのは、「普遍的人権主義」か「文化相對主義」か、なのではない。このような二項対立的議論を生じせしめるような言説のトポス——他者を表象することで、これを支配したいという欲望が生じるトポス——をこそ、私たちは問わねばならない。

(岡真理『彼女の「正しい」名前とは何か』)

(注) ○ア・プリオリ——経験に先立って与えられている意。先験的。先天的。

○ナワール・エル・サアダーウィー——エジプトの作家・精神科医・人権活動家。

○エティエンヌ——人類学者。

○リーコック——人類学者。

○ジジェク——哲学者。

○トポス——場所の意。

問一 二重傍線部(1)・(2)の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(1)は解答欄 21 に、(2)は 22 にマークしなさい。

- | | |
|---|---|
| <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">21</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">(1)</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ア 一方的に自分の意見を主張すること</p> <p>イ わかりやすい標識を作り掲げること</p> <p>ウ 声に出して意図を明確に述べること</p> <p>エ 主張などをはっきりと掲げ示すこと</p> <p>オ 抑圧に対して抵抗の意思を示すこと</p> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">22</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">(2)</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ア 普遍的であると証明すること</p> <p>イ 間違いないと認めること</p> <p>ウ 特定の状態を保ち続けること</p> <p>エ 安全性を保証すること</p> <p>オ 不足した情報を補うこと</p> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">23</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">にマークしなさい。</div> </div> </div> </div> </div> | <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">22</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">にマークしなさい。</div> |
|---|---|

問二 傍線部(a)の理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 23 にマークしなさい。

ア 女性たちを因習で縛り、抑圧する社会が一〇〇〇年以上前から存続する現状によって、西洋を中心とした「世界」のあり方が崩れてしまいう可能性があるから。

イ アラブ文学という「第三世界」を主な研究対象とする者にとって、ムスリム女性やアフリカ女性などの抑圧の実態のみに関心が集まる状況は喜びがたいから。

ウ 日本でも女性学に関するとりくみは芽生えつつあるものの、「掟」といったようなことは、自社会の法律や規則と結び付けて想像で語るわけではないから。

エ 「第三世界」の女性たちを一方的に犠牲者視する言説によって、彼女たちが属する社会を抑圧的で野蛮なものとする認識が未だに再生産され続けているから。

オ いわゆるステレオタイプが未開的で野蛮という「第三世界」のイメージを作り上げた結果、そこで生きる人々に対する同情ばかりが強くなってしまったから。

問三 傍線部 (b) の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 24 にマークしなさい。

ア 名目上の価値が等しければ良質なもののよりも悪質なもののほうが広まりやすいという市場の原理は、「第三世界」の女性たちの実情を無視して、彼女たちを差別される他者とする認識が広まる状況にも比喩的に当てはまるということ。

イ 良質なもののよりも悪質なもののほうが基本的に売れやすいという市場原理のロジックは、暴力的な社会に抑圧されていると語った、「第三世界」の女性たちの言説だけが一方的に世界に広まっている現状にも当てはまるということ。

ウ 良質なもののほうが多かろうと悪質なもののほうが広まりやすいという市場の原理は、「第三世界」の女性たちのことだが、社会的弱者といった誤ったイメージで一義的に語りなおされてしまう現状にも比喩的に当てはまるということ。

エ 常に善と悪の対立が繰り返されているという市場の原理に基づくたとは、「第三世界」の女性たちと欧米の人々とのあいだで、普遍的な人権やフェミニズムをめぐる意見の食い違いがたびたび生じている現状にも当てはまるということ。

オ 善を広めていくために悪を減ばしていくという市場の原理に基づくたとは、日本や欧米の人々の人権思想によって「第三世界」の女性たちが一方的に誤解を受け、新たな抑圧が生み出されている状況にも当てはまるということ。

問四 傍線部 (c) の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 25 にマークしなさい。

ア 「世界」の中心は西洋であり、それ以外は基本的に他者と位置付けられる。そのような他者の社会は、父権的な構造の下に女性や子どもたちを抑圧し続けているため、近代的人権概念に基づく西洋がこれを批判して一方的に悪と定めているということ。

イ 宗教的な掟や民族的な因習によって縛られている女性たちは、近代的人権概念に基づく西洋から見れば明らかに他者である。このような抑圧の構造を根本的に解消するために、西洋はそこで生きる人々に人権思想を教える決定権を有しているということ。

ウ 「第三世界」の女性たちが属する社会は西洋から見れば明らかに他者であり、西洋から人権を教えられる必要がある。そのような女性たちの解放を目的として、西洋は、因習的な抑圧の構造は非常に危険であると法に基づき世界に広めているということ。

エ 未だに野蛮な世界であると認識されているアラブ社会やアフリカ社会、またはイスラームなどは、女性たちに抑圧を強い、女性たちが抑圧を被り続けている。そのため、他者である西洋が、そこで生きる人々に対する正しい人権教育を決定したということ。

オ アラブ社会やアフリカ社会などは、西洋から見れば異なる原理を生きる他者であり、同時に西洋から人権を教えられる側とされる。このようにして西洋は、他者の社会を、女性たちに抑圧を強い、女性たちが抑圧を被る世界と決めつけているということ。

問五 傍線部(d)の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 26 にマークしなさい。

ア 「新植民地主義」の経済的虐殺という現実を覆い隠しつつ、「フェミニズム」対「イスラーム」などの二分法で問い掛け、第三者的な立場からその暴力性を非難しているということ。

イ 「原理主義者」などのレッテルを貼り続ける西洋への批判を覆い隠し、公平な二分法による問いと第三者的な立場によって、大衆の非難を回避する仕組みになっているということ。

ウ 「普遍的人権」は西洋が決定し、異論は認めないという姿勢を覆い隠し、二分法による問い掛けで第三者的な立場に見せかけた、権力を行使する側の策略になっているということ。

エ 「平等主義的な関係」は西欧の価値観に基づくとする歴史を覆い隠し、それとは異なる二分法を問う第三者的な立場によって民族主義的思想を広める行為になっているということ。

オ 「良い」対象と「悪い」対象の分裂がすでに発生している事実を覆い隠し、どちらを選ぶかを問い掛けて第三者的な立場に見せかけるような支配的な存在を演じているということ。

問六 傍線部(e)の理由として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 27 にマークしなさい。

ア ムスリム女性であることとフェミニストであることは両立不可能かという問いへの回答は、西洋で行使されている何らかの権力が隠していた仕組みを明らかにしかなないものだから。

イ 「普遍的人権主義」と「文化相対主義」のどちらの立場をとるかといったような問いへの回答は、西洋が他者を表象する言説の主体になるという前提を受け入れてしまうことになるから。

ウ 普遍的人権の「普遍性」自体に疑いを差し挟むような問いへの回答は、原理主義者やテロリストといったレッテルを貼られて世界から糾弾されることになってしまう危険性があるから。

エ 西洋対東洋といったような二項対立的な問いへの回答は、普遍的人権の中心に位置する西洋が他者を表象する言説の主体になるという前提を拒絶することになりかねないものだから。

オ 二項対立的議論を生じせしめるような問いへの回答は、個々人の主体的な選択を保証しているように見せかけながら、だれしもが求める正義の側へと誘導しているにすぎないから。

問七 問題文の内容としてふさわしいものを、次のア～カの中から二つ選び、解答欄 28 に二つマークしなさい。

ア 西洋や日本で生きる人々は、自らの社会における法や規則を「掟」とは呼ばないが、ムスリム女性などを「掟」に縛られていると捉えることで「普遍的人権」を理解できるようになる。

イ 近代的人権概念をもった幸福な社会に生きている「私」といったようなナルシスティックな自己像は、非人道的な因習の存在を受け入れてしまう過程を通じて内面化される場合が多い。

ウ 歴史的に見て西洋は「第三世界」を常に植民地化してきたが、それは、前植民地時代の現実が極めて抑圧的で野蛮なものであり、近代的人権概念の教育を必要としていた結果である。

エ 抑圧される女性の主体性の回復を目指すうえで掲げられる「普遍的人権」とは、あくまでも西洋が主張し、規定するものであり、「第三世界」の原理や慣習はそこから排除されている。

オ 西洋を主導とする「普遍的人権」というシステムに絡めとられた者たちは、各社会の伝統的な文化に参与することとそれが相互に両立不可能であるという前提を受け入れることになる。

カ 他者を表象することで、これを支配したいという欲望が生じるトポスを批判し、その原因となる「文化相対主義」や「原理主義」という考え方を積極的に否定していくべきである。

〔文学部日本文学科・中国文学科・史学科は 必須。文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は 選択〕

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄 41 ～ 58 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄 41 ～ 54 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問十一で40点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問八で30点）

次の文章は、『源氏物語』の一節で、院が新たに妻として迎えた若い女宮のもとに、院と長年連れ添ってきた女君が出かけて対面をしようとしている場面である。女君は自分の方から女宮のもとに出かけることに屈辱を感じている。これを読んで、後の問いに答えなさい。

対には、かく出で立ちなどし たまふものから、我より上の人やはあるべき、身のほどなるものはかなきさまを、見えおき たてまつりたるばかりこそあらめなど思ひつづけられて、うちながめたまふ。手習などするにも、おのづから、古言も、もの思はしき筋のみ書かるを、さらばわが身には思ふことありけりと みづからぞ思し知らるる。

院、渡りたまひて、宮、女御の君などの御さまどもを、うつくしうもおはするかなとさまさま見たてまつりたまへる御目うつしには、年ごろ目馴れ たまへる人の、おほろけならむがいとかく驚かるべき にもあらぬを、なほたぐひなくこそはと見たまふ。ありがたきことなりかし。あるべき限り気高う 恥づかしげにととのひたるにそひて、はなやかにいまめかしくにほひ、なまめきたるさまさまのかをりも取りあつめ、めでたき盛りに見えたまふ。去年より今年はまさり、昨日より今日はめづらしく、常に目馴れぬさまの したまへるを、いかでかくしもありけむと思す。

うちとけたりつる御手習を、硯の下にさし入れたまへれど、見つけたまひてひき返し見たまふ。手などの、いとわざとも上手と見え、らうらうじくうつくしげに書き たまへり。

身にちかく 秋や来ぬらむ見るままに青葉の山もうつろひにけり

とある所に、目とどめたまひて、

水鳥の青羽は色もかはらぬを萩のしたこそけしきことなれ

など書き添へつつすさびたまふ。ことに触れて、心苦しき御気色の、下にはおのづから漏りつつ見ゆるを事なく消ちたまへるも、^(Z)ありがたくあはれに思さる。

(注) ○対―対の屋。女君をさす。女君は対の屋に住み、女宮は同じ屋敷の寢殿に住んでいる。

○身のほどなるものはかなきさま―頼りない身の上を。身寄りのない女君は、若い頃に院に引き取られ、正式な結婚の儀礼を経ないまま妻となった。女君はそのことを負い目に感じている。

○宮、女御の君など―女宮や女御の君など。女御の君は院の娘。

問一 二重傍線部(1)～(4)の敬意の対象の組み合わせとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 41 にマークしなさい。

ア	(1) 院	(2) 女君	(3) 女君	(4) 院
イ	(1) 院	(2) 院	(3) 女君	(4) 女君
ウ	(1) 女君	(2) 院	(3) 院	(4) 院
エ	(1) 女君	(2) 女君	(3) 女君	(4) 院
オ	(1) 女君	(2) 院	(3) 院	(4) 女君

問二 傍線部(a)の解釈として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 42 にマークしなさい。

- ア 私より勝る人はいないはずだ
- イ 私以外に愛される人がいてもよい
- ウ 私以外に愛される人があるはずがない
- エ 私より勝る人であるのにちがいない
- オ 私より勝る人なのだろう

問三 傍線部 (b) の内容として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 43 にマークしなさい。

- ア つらい内容の古歌ばかりを書いた誰かの手習を見て、自分には苦しんでいることがあったのだと自覚する、ということ
 イ 憧れの思いを歌う古歌ばかりが手習に書かれていたので、そうであれば自分とは関係のない事柄だと考える、ということ
 ウ 物思いに関する古歌ばかりが手習として書いてしまうので、自分には思い悩むことがあったのだと気づく、ということ
 エ 苦しい恋を歌った古歌ばかりが手習として書かれているのを見て、あのことろ自分はつらかったと思い出す、ということ
 オ 手習などをしてしても物思いに苦しむ古歌ばかりを書いてしまうので、これだから自分はだめなのだと反省する、ということ

問四 傍線部 (c)・(e) の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、(c) は解答欄 44 に、(e) は 45 にマークしなさい。

(c)				
44	ア	イ	ウ	エ
	まぶしく	やさしく	尊く	かわいらしく
	幼く			

(e)				
45	ア	イ	ウ	エ
	不満な様子で	立派な様子で	優美な様子で	繊細な様子で
				邪魔な様子で

問五 傍線部 (d) に示されているものとして最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 46 にマークしなさい。

- ア 院の心遣いがこのうえないものであることに對する女君の感謝
 イ 女君の美しさがめつたにないものであることに對する語り手の批評
 ウ 女宮をこのうえないものとしてありがたがる院に對する女君の皮肉
 エ 女君の美しさが女宮に及ばなかったことに對する語り手の感想
 オ 女宮の美しさが比類のないものであることに對する院の驚嘆

問六 傍線部 (f) の解釈として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 47 にマークしなさい。

ア なんとかしてこのように美しいままであってほしかった

イ なんとかして人目につかないようにしたかったのだろう

ウ どうして隠しとおすことができなかったのだろう

エ どうしてこのようにすばらしく成長していくのだろう

オ どうしてこのように美しく生まれたのだろう

問七 傍線部 (g) の和歌の内容として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、解答欄 48 にマークしなさい。

ア あなたは不変の愛情を誓いますが、すぐに心を変えてしまうことでしょう。

イ 状況を変えることはできませんが、あなたへの愛情は格別なものです。

ウ あなたへの愛情はそのままですが、状況が変わってしまったのです。

エ 私の愛情は変わらないのに、あなたの心こそおかしいことです。

オ あなたは顔色を変えないので、心のなかで考えていることがわかりません。

問八 点線部 (一) 動詞「し」・(二)「見え」の、

1 活用の行 2 活用の種類 3 活用形

は何か。該当するものを、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、(一)の1は解答欄 49、2は 50 に、3は 51 に、(二)の1は解答欄 52 に、2は 53 に、3は 54 にマークしなさい。

1	ア	ア行	イ	サ行	ウ	マ行	エ	ヤ行	オ	ラ行	カ	ワ行
2	ア	四段活用	イ	上一段活用	ウ	上二段活用	エ	下一段活用	オ	下二段活用	カ	変格活用
3	ア	未然形	イ	連用形	ウ	終止形	エ	連体形	オ	已然形	カ	命令形

注意 文学部日本文学科・中国文学科・史学科は、次のページに問題が続きます。



問九 (日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

波線部 (W)・(Y) の文法的説明として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中からそれぞれ一つずつ選び、(W) は解答欄 55 に、(X) は 56 にマークしなさい。

ア 完了の助動詞 イ 断定の助動詞 ウ 形容動詞の一部 エ 副詞の一部 オ 格助詞

問十 (日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

波線部 (X) の解釈として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 57 にマークしなさい。

ア 秋が来ていないということだろうか

イ 秋が来ないでいてほしいよ

ウ 秋が来てしまっているのだろうか

エ 秋が来てしまっているそうだよ

オ 秋が来ないことはあるのだろうか

問十一 (日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

波線部 (Z) のように思う理由として最もふさわしいものを、次の ア～オ の中から一つ選び、解答欄 58 にマークしなさい。

ア 女君が、こらえていても自然にわかるいたわしい気持ちを隠して、何でもないように振る舞っているから。

イ 院が心のなかではさまざまに苦しんでいることを察して、女君がそれに気づかないように振る舞っているから。

ウ 女君が、女宮に対する嫉妬心を院に漏らしながらも、女宮の前ではそれを打ち消すように振る舞っているから。

エ 院が時々漏らす女宮への愛情を感じとりながらも、女君がいつもと同じように振る舞っているから。

オ 女君が、つらい心持ちを女房に漏らしつつも、院には何も気にしていないように振る舞っているから。

〔文学部日本文学科・中国文学科・史学科は 必須。文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は 選択〕

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は解答欄 61 ～ 69 に、文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は解答欄 61 ～ 68 に解答すること。

（文学部日本文学科・中国文学科・史学科は問一～問七で 20 点）

（文学部外国語文化学科・哲学科、神道文化学部、法学部、経済学部、人間開発学部、観光まちづくり学部は問一～問六で 30 点）

次の文章は欧陽修が梅聖俞の詩集のために著した序文である。これを読んで、後の問いに答えなさい。ただし、問いの都合で返り点・送りがないを省いた部分がある。

予友梅聖俞、少以蔭補為吏、累擧進士、輒抑於有司、
 困於州県、凡十余年。今年五十、猶從辟書、為人之佐、鬱
 其所蓄、不得奮一見於事業。其家宛陵、幼習於詩、自為童
 子、出語已驚其長老。既長、學乎六經、仁義之說、其為文
 章、簡古純粹、不求苟說於世。世之人徒知其詩而已。然
 時無賢愚、語詩者、必求之聖俞。聖俞亦自以其不得志
 者、樂於詩而發之。故其平生所作、於詩尤多。世既知之

矣。而未 有 薦 於 上 者。

（『欧陽修全集』）

（注）○梅聖俞——人名。 ○蔭——父祖の功績によって子が官職に就くこと。 ○挙進士——官吏登用試験に推挙される。

○有司——官僚。 ○辟書——辞令。 ○人之佐——州や県の属官。 下役。 ○宛陵——地名。 ○習於詩——詩に習熟する。

○六経仁義——儒教の経典とその教え。

問一 波線部 (X) (Z) の送りがなを含めた読み方として最もふさわしいものを、次の ア イ エ の中からそれぞれ一つずつ選び、(X) は解答

欄 61 に、(Y) は 62 に、(Z) は 63 にマークしなさい。

(X) 少			
61			
エ	ウ	イ	ア
まづしくして	しばらくして	わかくして	すくなくして

(Y) 輒			
62			
エ	ウ	イ	ア
おしむらくは	さいはひに	やうやく	すなはち

(Z) 徒			
63			
エ	ウ	イ	ア
たまたま	いたづらに	あるきて	ともに

問二 傍線部 (a) の解釈として最もふさわしいものを、次の ア イ エ の中から一つ選び、解答欄 64 にマークしなさい。

ア 生来の憂鬱な思いを内におしこめることが、かえって政治上の仕事に奮闘する力となっていると思われる。

イ これまで身につけたものの蓄積が十分ではないのは、政治上の仕事を優先せざるを得なかったためである。

ウ これまで身につけたものを内におしこめるばかりで、政治上の仕事に十分に力を発揮することができずにいる。

エ 生来の憂鬱な思いは詩人の財産であるから、かならずしも政治上の仕事に奮闘する必要はないのである。

問三 傍線部 (b) の書き下し文として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 65 にマークしなさい。

ア 童子^{どうじ}の為^{ため}にするより

イ 童子^{どうじ}為^なりしときより

ウ 自^{みづか}ら童子^{どうじ}と為^なれば

エ 自^{おのづか}ら童子^{どうじ}の為^{ため}にして

問四 傍線部 (c) の解釈として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 66 にマークしなさい。

ア 当時は、どんな人であっても

イ その時、賢者も愚者もいなくなり

ウ 時には、どんな人かを無視して

エ 一挙に、賢者と愚者の境がなくなり

問五 傍線部 (d) のように言うのはなぜか。その理由として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 67 にマークしなさい。

ア 世間では文章よりも詩こそがより優れた文学形式だと考えていたから。

イ 世間の人々にはどれが優れた詩であるのか、見分けられなかったため。

ウ 梅聖俞は文章を作るのが苦手で、詩を作る方がより得意であったため。

エ 梅聖俞自身が不遇な思いを詩を作る楽しさによってはらそうとしたため。

問六

本文の内容として最もふさわしいものを、次の ア～エの中から一つ選び、解答欄 68 にマークしなさい。

- ア 梅聖俞が詩にのみ関心を持っていて、あえて文章を作ろうとしないのは残念だ。
- イ 梅聖俞は詩に優れ、世間でも評価されているにもかかわらず、不遇であるのが惜しまれる。
- ウ 世間の人は梅聖俞の文章にばかり注目するが、その詩を評価しないのは残念だ。
- エ 人は自分の好みに従って人生を送ればよく、もとより官職にこだわる必要はない。

注意

文学部日本文学科・中国文学科・史学科は、次のページに問題が続きます。



問七 (文学部日本文学科・中国文学科・史学科のみ解答すること)

二重傍線部は、「而れども未だ上に薦むる者有らず」と読む。これに従って施す返り点として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、解答欄 69 にマークしなさい。

ア 而_下 未_中 有_二 薦_一 於_上 上_上 者

イ 而_レ 未_レ 有_二 薦_下 於_上 上_一 者

ウ 而_レ 未_下 有_二 薦_一 於_上 上_上 者

エ 而_レ 未_レ 有_二 薦_二 於_上 上_上 者